

## 目黒区議会議長賞

今の笑顔があるのは

目黒区立目黒中央中学校 三年

平川 亜音

みなさんは、復興特別所得税を知っていますか。二千十一年に起きた、東日本大震災の復興のための税です。

私の祖母は、震災で大きな被害を受けた福島県に住んでいます。今まで感じたことのない恐ろしさだったそうです。復興所得税は二千十三年一月一日から二千三十七年まで、通常の所得税に上乗せして徴収される特別税。「自分とは関係ないのに、なぜ払わなければならぬのだろう。」

と思う方もいるかもしれません。では、どのようなことに使われたのでしょうか。

一つは、仮設住宅の建設です。災害から約半年で完成し、三十万人が利用しました。避難者の多くが入居し、生活の支えになりました。がれき処分や民間住宅の整備も進み、二千二十一年にはもとの生活に戻れるようになりました。仮設住宅利用者も、四万人まで減少しました。

二つめは、道路です。地震により、ヒビや段差、落橋などが発生して至る所で通行止めになりました。人命救助、物質輸送などに大きな影響を及ぼしました。復興のためのプロジェクトが立ち

上がり、東北中央自動車道（相馬～福島）などが復興支援道路として整備が進められ、二千二十一年、全線開通に成功しました。続いて、公共施設です。医療施設は災害から二ヶ月で受け入れ制限が回復しました。学校施設では、大体が四～五月に教育活動再開を果たしました。福島県も十一月に授業再開しましたが、約四割しか戻った生徒がいませんでした。第一原発事故の放射線の不安からでした。

原発事故の復旧も、税金が関わっています。立地に伴う安全対策などの費用に充てるため核燃料税が二・三倍高騰しました。現在では除染が進み、警戒区域が出入り可能になりました。ですが、立入禁止や立入制限の地域は未だに残っています。一刻も早く、もとの町に戻せるようにすべきだと思います。

このように、復興特別所得税や核燃料税の増税によって、福島県含め被害に遭った地域の『普通』の毎日が蘇りつつあります。祖母は十四年経つた今でも、目に涙を浮かべながら震災の話をするときがあります。私は当時、生まれて間もなかつたので記憶にありませんが、祖母をはじめ被害に遭われた方々の今の笑顔があるのは、税金のおかげと言っても過言ではありません。